

評価対象課題の研究内容と評価結果（概要）

研 究 課 題	1 麻痺性貝毒に関する機器分析法の研究（R2）
研究目的・背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・麻痺性貝毒成分の機器分析(LC-MS/MS) を可能とし、危機管理体制の強化を図る。</li> <li>・安全な食品（ホタテガイ）の供給を行うための毒化および減衰予測の指標を探索する。</li> </ul>
研究内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貝毒代謝物の測定方法の検討</li> <li>・代謝物の分離、精製、構造決定</li> <li>・調査定点における試料の採集と決定した方法による分析</li> </ul>
評価結果	<p>○総合評価 A（5人）・B（0人）・C（0人）<del>・D（1人）</del></p> <p>○総合意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手県沿岸域の環境や漁業に活用できる重要な研究成果が得られたと評価できる。</li> <li>・トキシンの機器分析により、毒性の迅速評価と動物実験代替の可能性を示した。さらに代謝物の解析により毒性減衰評価など県の貝類安全規制への貢献が期待され、今後の展開も広いと思われる。</li> <li>・優れた研究成果を挙げており、さらなる研究の発展に期待したい。</li> <li>・水産系試験研究機関との連携の強化を図っていただきたい。</li> <li>・非常に優れた成果である。貝毒がプランクトン増殖を反映するものだとしても、モニタリングや早期警戒における機器分析の有利性は主張できるのではないかと。</li> </ul>
センターの対応方針	<p>I 研究成果は目標を十分達成した</p> <p>II 研究成果は目標をほぼ達成した</p> <p>III 研究成果は目標をかなり下回った</p> <p>IV 研究成果は目標を大幅に下回った</p> <p>V 研究成果がなかった</p> <p>本研究により、麻痺性貝毒成分の機器による定量分析を可能とし、万一の健康被害発生時等における迅速な原因究明を可能とした。本研究の過程で新規の貝毒代謝物を分離し、構造を決定したことは、学術的に大きな成果であり、目標を十分に達成できたと考える。</p> <p>引き続き、貝毒と代謝物の経時的な増減に関するデータを蓄積・解析して貝毒減衰の速度等を明らかにするための取組を進め、本県の水産振興と食の安全・安心の確保に寄与したい。</p>

※ 記載欄は適宜調整（拡張）してください。